

小平市立小平第四中学校「学校だより」



# 四季

第11号 (1月)

～四中の季節～

『正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む』

令和8年1月15日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail [gakkou@34.kodaira.ed.jp](mailto:gakkou@34.kodaira.ed.jp)

## 「目標」に向かって実行すること

校長 関 勝 志

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

令和8年(2026年)がスタートしました。今年は午年(うまどし)です。馬と聞いて、どんな馬を想像するでしょうか。私が最初に思い浮かべるのは、競馬で迫力のある走りをするサラブレッドです。次に思い浮かぶのは小柄で可愛いポニー、そして、カウボーイのロデオ競技に登場する暴れ馬です。馬にもいろいろな姿があります。サラブレッドはだいたい時速60kmで走り、ポニーでも時速40kmで走ります。馬は力強さを感じさせる動物です。でも、馬の瞳からは優しさを感じます。午年は、そんな馬の姿にあやかり、明るく力強いエネルギーに満ちた年といわれ、「前進」や「飛躍」「挑戦」といった意味が込められています。



そんな馬を“うまく”コントロールするのに必要なのが「手綱」です。自分をコントロールするのは、自分しかいません。手綱は自分の心です。自分もっているエネルギーをどこに向けるのか、どこで発揮するのか、判断することが重要です。生徒たちには、学校生活においても自身の手綱をしっかりと握り、ここぞというときには全力を発揮してくれることを願っています。

2学期の終業式で、生徒たちに「振り返り」について話をしました。しっかりと反省し、自分を見つめ直すことができたことと思います。きっと前向きな気持ちで3学期を迎え、学習や生活、行事、部活動、友だち関係などにおいて、これからの行動や目標がイメージできていることでしょう。

「一年の計は元旦にあり」

新しい年を迎えるにあたり、その一年にやるべきことや目標など、年の初めに計画を立てることで有意義な一年になるという意味です。ことわざの由来は、戦国時代の武将である毛利元就の言葉からきています。

「一年の計は春にあり」

「一月の計は朔(ついたち・一日)にあり」

「一日の計は鶏鳴(一番鶏が鳴く早朝)にあり」

新しい一年の計画はその年の初めに、月の計画は月の初めの日に、そして、今日の計画は朝早くに立て、その計画を実行しなさいという意味です。別の言い方をすれば、何かをしようと思ったその「初め、始まりが肝心」だということです。さて、どんな目標や計画を立てたでしょうか。

目標や計画を立てたら、あとは実行あるのみですが、目標への向き合い方には二通りあります。それは「不言実行」と「有言実行」です。「不言実行」とは、黙ってなすべきことを実行することを意味します。見えないところで寡黙に行うのが美徳(立派な行い)であるとされていた、古き日本特有の価値観です。これに対して、「有言実行」とは、言ったことに責任をもって実行することを意味します。「不言実行」は古くからあることわざですが、「有言実行」は「不言実行」から派生した言葉です。

自分で決意してやろうと思っていることや目標を口に出してしまうとプレッシャーを自分に与えてしまうので、口に出さない方がプレッシャーを感じることなく行動に移すことができる、と考える人もいれば、そのプレッシャーこそが目標を達成するための大きなエネルギーになる、と考える人もいます。最近では、「有言実行」を支持する人の方が多いようです。特にスポーツ選手はその傾向が顕著です。オリンピックなどでも、「絶対に金メダルをとる」という試合に臨む選手が多くいます。「不言実行」にしても、「有言実行」にしても、大切なことは、実行しようと努力することです。

3学期は、「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」といわれるように、あっという間に過ぎていきます。そして、4月からの新しい生活を充実させるためには、とても重要な時期です。生徒たちには、見通しをもち、計画を立て、そして、確実に実行してほしいと思います。特に3年生にとっては将来にもつながる大事な進路選択(高校受験)が大詰めを迎えます。「人事を尽くして天命を待つ」という気持ちで、ベストを尽くしてほしいと思います。先生たちも、1・2年生も、3年生を応援しています。また、1年生はスキー移動教室、2年生は校外学習(都内巡り)を予定していますので、安全かつ有意義な体験になることを願っています。何と言っても健康第一です。睡眠と食事と運動、基本的な感染症対策を意識して生活してください。

## ■阪神・淡路大震災から31年■

1995年1月17日の早朝、5時46分に、阪神・淡路大震災が発生しました。大都市直下型地震は、6,434人の命を奪い、住まいやライフラインなどに甚大な被害をもたらしました。そこから、防災に対する人々の意識が高まり、国としての防災対策が推進され、ボランティアによる支援の動きも生まれました。その後も、新潟中越地震や東日本大震災、熊本大地震、北海道胆振東部地震、能登半島地震など、大地震による被害は後を絶ちません。今この瞬間にも、東京都を震源地とした大規模な直下型地震が発生してもおかしくありません。これまで災害で亡くなられた方々の死を無駄にしないためにも、私たち一人一人が災害の記録と記憶を語り継ぐとともに、防災対策を推進していくことが大切です。



## ■演劇部の舞台裏話■

2月28日(土)の展示発表会では、今年度も演劇部による舞台発表を予定しています。毎年、保護者や地域の方々にも好評です。日々活気ある活動をしているコダヨン演劇部の発表に向ける思いと劇の見どころを顧問の猪俣先生にまとめてもらいました。



### ～舞台づくりを通して結ばれた絆～

6月公演の3年生の引退作品『桜井家の掟』では5人姉妹の家族の絆を、10月地区大会では1・2年生が中心となって公演する初めての舞台『女子高生』では、都大会を目指す演劇部という設定で男女の絆を描きました。作中の「演劇やるのに男子とか女子とか関係ないよね」「都大会に進むときも進めないときもみんな一緒。演劇はみんなでやるものだよ。」という台詞が象徴するように、舞台づくりを通して部員たちの絆を深めてきました。

地区大会に向かう稽古では「信じる」を裏テーマに進めてきました。自分たちの力を信じる、お客さんを楽しませられると信じる、部員同士で仲間の力を信じる。一つの作品を決めたら3～4か月練習するのが当たり前の演劇部。稽古にかかる時間と労力を考えると文字通り自信がなければ前に進むことはできませんし、部員全員の力を合わせなければ公演を成功させることはできません。大会前の週からインフルエンザが流行り、前日まで本当に全員で舞台に立てるかも分からない状況でした。しかし、全員で舞台に立ち、幕が上がるその瞬間を夢見て、稽古を続けました。地区大会の結果は、上位3本に入れず(補欠でしたが)、都大会には進めませんでした。念願の都大会の舞台には立てませんが、それでも演劇部としては最高の絆で結ばれる結果になりました。

### ～展示発表会に向けて～

地区大会を終え、次の目標を展示発表会(2月28日)と公民館まつり(3月7日)に定めて動き出した演劇部が、最初に話し合ったのは前作『女子高生』を磨き上げて上演するか、新しい作品を選ぶか・・・でした。みんなで作品や部活動に対する思いを語りあい、部員たちが出した結論は、台本を変えるというものでした。

中学生が一つの舞台をつくるのに必要な期間を考えると十分とは言えない2か月半。前作を公演するには夏休みを含め、4か月の稽古を重ねました。その時間を思うと十分とは言えない練習スケジュールですが、部員たちは台本を変えるという決断をしました。

今回の稽古における裏テーマは「挑戦」です。もう二度とこのメンバーで大会に挑むことはできませんが、最後にもう一度、みんなで舞台づくりに挑戦することが部員たちの思いでした。東京都の中学校に数ある演劇部のなかでも、地区大会を終えた後にもう一度45分の舞台づくりを始める学校はそう多くはありません。台本を変えてもいい結果になると信じて挑戦し、台本探しを始めて4日目に出会った作品が『FLOAT』です。いまは演劇部全員で舞台づくりを楽しみながら、一生忘れられない中学校生活の思い出をつくり、最後の公演に向けて着々と歩みを進めています。(なかなか上手くはいかない舞台づくりの難しさに挑戦しながら！)

### ～展示発表会上演作品『FLOAT』の紹介～

今回の展示発表会で発表する作品『FLOAT』は、「浮いている(変わっている)」「生きづらさ」をテーマに、福岡県のクラーク記念国際高等学校が2020年に全国大会で上演し、最優秀賞に選ばれた作品です。

ちょっと変わった転校生のマー子、浮かないように“普通の子”を演じているナガオさん(リン子)、人と違うということを恐れないタチバナ(ハナちゃん)、学級委員で優等生という仮面をつけた杏、の4人を中心に、誰もが抱える(等身大の)悩みや生きづらさを舞台上で表現します。

物語全体の流れとしては、マー子とナガオさんの友情を描きながら、中高生らしい誰もが感じる人生の葛藤(浮き沈み)を通して、自分を理解してくれる友だちや仲間の大切さを感じることが出来ます。

令和7年度コダヨン演劇部の最後の舞台発表です。これまで応援してくれた保護者の皆さまには、OB・OGや3年生の分まで稽古に励み精一杯演じますので、展示発表会当日は体育館に観劇に来ていただくと幸いです。

## 【2月の主な行事】

2日	都立高校推薦合格発表	12日	専門委員会	22日	都立高校通信制入試
	振替休業日(1)	13日	中央委員会/避難訓練	24~26日	学年末考査
4日	中学校体験入学(小6)	16日	生徒会朝礼	27日	展示発表会準備
6日	新入生保護者説明会	18日	学校保健委員会	28日	展示発表会
9日	全校朝礼	21日	都立高校一次前期入試		CS合同研修会